

論文審査の要旨

筆頭著者（学位申請者）氏名

山田（仲島）麻里可

主論文の題目
および
掲載・審査委員名

題目 Relation Between the CHA₂DS₂-VASc Score and Left Atrial Appendage Thrombus in Patients with Non-valvular Atrial Fibrillation under Real-world Anticoagulation with Warfarin.

（一般臨床現場における非弁膜症性心房細動患者の CHA₂DS₂-VASc Score と左心耳内血栓の関係）

掲載誌 Journal of St. Marianna University (in press)

主査 松本 直樹

副査 長谷川 泰弘

副査 宮入 剛

[論文の要旨・価値]

非弁膜症性心房細動に伴う左心房内血栓が原因の脳梗塞は障害範囲が大きく予後不良で、生存症例は寝たきりになりやすいことから適切な抗凝固治療法の普及が急務である。長らく使われてきたワルファリンの効果と出血という相反因子の調整では、危険因子による治療対象患者識別スコアの CHADS₂ スコアの利用で一定の成果を上げたが、低リスク患者の取り扱いには不十分だった。筆者らはさらに詳細な CHA₂DS₂-VASc スコアに着目し、一般医家より紹介されたワルファリン療法患者 408 例を対象に、経食道心エコー検査による左心耳内血栓と CHA₂DS₂-VASc スコアの関係を調査した。スコアが 1 点以下の低リスク患者では 3.7%、2 点以上では 17.3%に左心耳内血栓を認め、高スコアほど確率は増加した。特筆すべき事として、発作性心房細動では 0 点で 0%、1 点で 1.8%に対し、持続性または慢性心房細動では 0 点で 9.4%、1 点で 6.5%と、心房細動持続時間の延長により、より高率に血栓が確認された。心不全や脳梗塞既往などの危険因子のみならず、心房細動の病型の違いが血栓形成に大きく関与する事を示した事の臨床的価値は高く、優れた論文であると判断された。

[審査概要] 平成 27 年 1 月 9 日、主査と 2 名の副査、数名の陪席者のもとで審査した。PC による 25 分間の口頭発表では心房細動の基礎的事項と当該研究データの臨床的意義について理解しやすく解説した。40 分間の質疑応答では研究データからどのような判断が可能か、また現在進行中の大規模臨床研究のデータ解釈を問う質問など多岐にわたったが、申請者は真摯に対応した。基礎的事項の一部を除き、質問には的確に回答し、回答に時間がかかる場合も、そこで自ら考え、最終的に的確な回答に至る真面目な態度から、実際に興味を持って臨床および研究に参画していると判断できた。以上より、研究能力・発表能力・語学力・態度・人格のいずれも学位授与に値する水準を上回ると判断された。

最終試験結果の要旨

[研究能力・専門的学識・外国語（英語）試験等の評価]

1) 研究能力：心房細動について良く学習し、自らデータ収集を行い、臨床研究の経験を積んだ結果、大学院生として必要な研究能力を獲得したと判断された。2) 専門的学識：発表と質疑応答を通じ心房細動の基礎、治療法、周辺知識を含む専門知識を有する事を確認した。3) 英語試験：当該論文の引用文献を審査の場で指定し、その抄録を和訳させた結果、標準的な語学力を有すると判断した。